

# 指定事業所設置許可申請書

〇〇年〇〇月〇〇日

実際に提出する日付を記入  
郵送の場合は投函日

（あて先）川崎市長

郵便番号 210-0004

住 所 川崎市川崎区宮本町1番地

氏 名 川崎産業株式会社

代表取締役 甲乙 丙丁 押印不要

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例第17条第1項の規定により、指定事業所について設置の許可を受けたいので、関係書類を添えて申請します。

指定事業所の名称等	名 称	川崎産業株式会社 川崎工場	
	所 在 地	川崎市川崎区X町一丁目1番1号	
指 定 事 業 所 で 行 う 作 業	条 例 別 表 の 作 業		別表第1に掲げる作業の内容
	建設機械、産業用機械その他の一般機械器具の製造の作業		作業番号（ 24 ） 使用施設（（4）・（5））
	燃料その他の物の燃焼による熱媒体の加熱又は空気の加温若しくは冷却の作業		作業番号（ 61 ） 使用施設（ （1） ）
	動力を用いて行う物の塗装の作業		作業番号（ 62 ） 使用施設（ （1） ）
物の表面処理又はめっきの作業		作業番号（ 64 ） 使用施設（（2）・（3））	

(裏)

事業開始予定年月日 〔事業所設置年月日 (既に設置されている事業所 の場合に限る。)]	〇〇年〇〇月〇〇日 ( 年 月 日)
他の公害関係法規等の手続状況	<input checked="" type="checkbox"/> 大気汚染防止法 〇〇年〇〇月〇〇日提出 <input checked="" type="checkbox"/> 水質汚濁防止法 〇〇年〇〇月〇〇日提出 <input checked="" type="checkbox"/> 騒音規制法 〇〇年〇〇月〇〇日提出 <input checked="" type="checkbox"/> 振動規制法 〇〇年〇〇月〇〇日提出 <input type="checkbox"/> ダイオキシン類対策特別措置法 年 月 日提出 <input type="checkbox"/> 下水道法 年 月 日提出 <input type="checkbox"/> 建築基準法 年 月 日提出 <input type="checkbox"/> 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 年 月 日提出
環境配慮事項	環境への負荷の低減 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 化学物質の適正管理 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 自動車排出ガスの排出の抑制等 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 温暖化物質の排出の抑制 要 <input type="checkbox"/> 不要 <input checked="" type="checkbox"/> 廃棄物の発生の抑制及び再生利用等 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 環境の保全に係る組織体制の整備 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> その他環境への負荷の低減 要 <input type="checkbox"/> 不要 <input checked="" type="checkbox"/>
連絡先	担当部署 総務部 総務課 担当者氏名 甲乙 戊己 電話番号 〇〇〇-〇〇〇〇 (内線) 〇〇〇
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 指定事業所概要書(第2号様式) <input checked="" type="checkbox"/> 公害防止方法計画書(第3号様式) <input checked="" type="checkbox"/> その他(別紙〇~〇)

- 備考 1 条例別表の作業の欄には、同表の1から68までの作業についてはその作業名を、同表の69の作業については別表第1の69の項の作業の内容の欄に掲げる作業の作業名をそれぞれ記載してください。
- 2 別表第1に掲げる作業の内容の欄には、同表の条例別表の作業の欄に掲げる番号を作業番号の( )内に、同表の施設の欄に掲げる施設の番号を使用施設の( )内にそれぞれ記載してください。
- 3 他の公害関係法規等の手続状況の欄には、手続を行った法規について□内にレ印を記載し、その手続を行った年月日を記載してください。
- 4 環境配慮事項の欄には、該当する□内にレ印を記載し、「要」に該当する環境配慮事項に関する配慮概要書を添付してください。
- 5 添付書類の欄には、添付した書類については□内にレ印を記載し、その他の書類を添付した場合にはその添付した書類の名称を( )内に記載してください。

指定事業所概要書

業種	生産用機械器具製造業				日本標準産業分類における中分類を記入
作業工程	別紙〇のとおり				
主要な生産品及びその生産量	主要な生産品		生産量		
	〇〇〇〇		〇〇台/月		
	△△△△		〇〇台/月		
	□□□□		〇〇台/月		
地域	<input type="checkbox"/> 第一種低層住居専用地域		<input type="checkbox"/> 第二種低層住居専用地域		
	<input type="checkbox"/> 第一種中高層住居専用地域		<input type="checkbox"/> 第二種中高層住居専用地域		
	<input type="checkbox"/> 第一種住居地域		<input type="checkbox"/> 第二種住居地域		
	<input type="checkbox"/> 準住居地域		<input type="checkbox"/> 近隣商業地域		
	<input type="checkbox"/> 商業地域		<input checked="" type="checkbox"/> 準工業地域		
	<input type="checkbox"/> 工業地域		<input type="checkbox"/> 工業専用地域		
	<input type="checkbox"/> その他の地域				
規模	資本金又は出資金	事業所の従業員数	敷地面積	建物の床面積	
	100,000 千円	200 人	5,000 m <sup>2</sup>	3,000 m <sup>2</sup>	
敷地・建物等の状況	指定事業所の位置及び周辺の状況	別紙〇のとおり			
	敷地内における建物等の配置状況	別紙〇のとおり			
	建物工種の種類及び工事予定期間	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増改築		〇〇年〇〇月〇〇日 ~ 〇〇年〇〇月〇〇	
	建物等の構造及び規模	別紙平面図のとおり			
不飽和ポリエステル樹脂の塗布の作業を行う場合にあつては、その作業の状況					

備考 □のある欄には、該当する□内にレ印を記載してください。

(2面)

指 定	名 称		24(4)動力プレス機	24(5) せん断機	61(1) ホイラ-		
	事業所における施設番号		P-1	S-1	B-1		
	種 類 及 び 型 式		〇〇社製△△型	〇〇社製△△型	〇〇社製△△型		
	台 数		1	1	1		
	規 模 又 は 能 力		加圧能力 98kN	原動機出力 3.7KW	60 ㎥/h、12 ㎡		
	用 途		作業用	作業用	給湯用		
	構 造 ・ 配 置 状 況		別紙〇のとおり	別紙〇のとおり	別紙〇のとおり		
施 設	燃料又は電 力	種 類		電力	電力	都市ガス	
		燃料中の 成分割合 (%)	硫黄分				
			窒素分				
	総 発 熱 量				45,000kJ/m <sup>3</sup> N		
原 材 料 (排煙の発 生に影響の あるものに 限る。)	種 類						
	原材料中の成分割合(%)						
	1日の使用量又は取扱量						
使用状況	1日の使用時間		8:00~18:00	8:00~18:00	8:00~18:00		
	季 節 変 動		なし	なし	なし		
原 材 料 等 の 品 目、 用 途 及 び 使 用 量	排煙指定物 質、排水指定 物質及び炭化 水素系物質を 含有するもの	品 目	用 途	1月当たりの 使用量	含有物質	含有率	
	その他のもの (主要なもの に限る。)	品 目	用 途	1月当たりの使用量			

- 備考 1 指定施設の原材料中の成分割合の欄には、硫黄分、窒素分及び燃焼に伴い排煙指定物質を排出する可能性のある成分について、その割合を重量比・容量比の別を明らかにして記載してください。
- 2 指定施設の熱源として電力を使用する場合は、種類の欄に「電力」と記載してください。

(2面)

指 定	名 称		62(1)塗装施設	64(2)脱脂洗浄施設	64(3)めっき施設		
	事業所における施設番号		T-1	D-1	M-1		
	種 類 及 び 型 式		〇〇社製△△型	〇〇社製△△型	〇〇社製△△型		
	台 数		1	1	1		
	規 模 又 は 能 力		原動機出力 5.5KW	800L×700W×800H	800L×7500W×800H		
	用 途		吹付け塗装用	部品洗浄	めっき用		
	構 造 ・ 配 置 状 況		別紙〇のとおり	別紙〇のとおり	別紙〇のとおり		
施	燃料又は電 力	種 類		電力			
		燃料中の 成分割合 (%)	硫黄分				
			窒素分				
	総 発 熱 量						
原 材 料 (排煙の発 生に影響の あるものに 限る。)	種 類						
	原材料中の成分割合(%)						
	1日の使用量又は取扱量						
使用状況	1日の使用時間		8:00~18:00	8:00~18:00	8:00~18:00		
	季 節 変 動		なし	なし	なし		
原 材 料 等 の 品 目、 用 途 及 び 使 用 量	排煙指定物 質、排水指定 物質及び炭化 水素系物質を 含有するもの	品 目	用 途	1月当たりの 使用量	含有物質	含有率	
		塗料	上塗り塗装用	〇〇ℓ	トルエン・キシレン	〇〇%	
		シンナー	塗料希釈用	〇〇ℓ	トルエン・キシレン	〇〇%	
		脱脂液	脱脂用	〇〇ℓ	トリクロロエチレン	〇〇%	
		クロム酸液	めっき用	〇〇kg	六価クロム	〇〇%	
	その他のもの (主要なもの に限る。)	品 目	用 途	1月当たりの使用量			
		りん酸	めっき用	〇〇ℓ			
		硫酸	排水処理用	〇〇ℓ			

備考 1 指定施設の原材料中の成分割合の欄には、硫黄分、窒素分及び燃焼に伴い排煙指定物質を排出する可能性のある成分について、その割合を重量比・容量比の別を明らかにして記載してください。

2 指定施設の熱源として電力を使用する場合は、種類の欄に「電力」と記載してください。

(3面)

用水量 (m <sup>3</sup> /日)	水源別の状況	総使用量	水源別内訳							
			工業用水	水道水	地表水	地下水	海水	回収水		その他
								淡水	海水	
		120	35	50		20				15
排水量 (m <sup>3</sup> /日)	排水の種類別状況	総使用量	用途別内訳							
			ボイラー用	原料用	製品処理・洗浄用	直接冷却用	間接冷却用	温度調節用	生活水	その他
		120	10		55		35		20	
排水量 (m <sup>3</sup> /日)	排水の種類別状況	総排水量	産業排水			生活系排水				
			工程排水	間接冷却排水	その他					
			90	65	5		20			
排水の排出先	<input type="checkbox"/> 公共下水道 ( <input type="checkbox"/> 分流式 <input type="checkbox"/> 合流式 ) <input checked="" type="checkbox"/> 公共用水域 ( ○○川 ) <input type="checkbox"/> 地下浸透 <input type="checkbox"/> その他 ( )									
用排水収支バランス	別紙○のとおり									

- 備考 1 のある欄には、該当する内にレ印を記載してください。
- 2 敷地・建物等の状況の欄のうち、建物等の構造及び規模については、建築図面（平面図、立面図及び構造詳細図）を添付してください。
- 3 排水の排出先の欄のうち、その他については、汚水等を別表第1の53の項に掲げる処理施設等に排出する場合にその排出先を（ ）内に記載してください。

### 公害防止方法計画書

指定施設等の 公害発生源	発生する主な 公害の種類	発生源での公害 の程度の予測値	公 害 防 止 対 策	排出口等での公害の程度	
				予 測 値	根 拠
動カプレス機 P-1	騒音	78 dB	距離・建屋減衰	63 dB	
〃	振動	68 dB	距離減衰・防振ゴム	60.3 dB	
せん断機 S-1	騒音	70.2 dB	距離・建屋減衰	58.2 dB	
〃	振動	60.1 dB	距離減衰・防振ゴム	54.1 dB	
ボイラー B-1	硫黄酸化物		都市ガス(13A)使用		
〃	窒素酸化物		低NOxバーナー	56 ppm (O <sub>2</sub> =5%)	
〃	ばいじん			0.001 g/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> (O <sub>2</sub> =5%)	
塗装施設 T-1	粉じん		塗装ブース		
〃	悪臭 (シンナー臭)		直接燃焼式脱臭装置		
〃	トルエン	29 ppm	〃	1 ppm	除去率 96%以上
〃	キシレン	94 ppm	〃	3 ppm	除去率 96%以上
指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 大気汚染物質の排出方法概要書(付表1) <input checked="" type="checkbox"/> 硫黄酸化物の排出量明細書(付表2) <input checked="" type="checkbox"/> 窒素酸化物の排出量明細書(付表3) <input type="checkbox"/> 炭化水素系物質の設備基準概要書(付表4) <input type="checkbox"/> ばいじんの排出量明細書(付表5) <input type="checkbox"/> ばいじんの設備基準概要書(付表6) <input type="checkbox"/> 粒子状物質の排出量明細書(付表7) <input checked="" type="checkbox"/> 粉じんの処理方法概要書(付表8) <input checked="" type="checkbox"/> 悪臭の処理方法概要書(付表9) <input checked="" type="checkbox"/> 排水の汚染状態、量等明細書(付表10) <input checked="" type="checkbox"/> 排水の処理方法概要書(付表11) <input checked="" type="checkbox"/> 特定有害物質の製造等の作業に係る施設の構造概要書(付表12) <input checked="" type="checkbox"/> 騒音の処理方法概要書(付表13) <input checked="" type="checkbox"/> 振動の処理方法概要書(付表14) <input checked="" type="checkbox"/> 付表1から付表14までの書類のほか、指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法を明らかにする図面、表等				

- 備考 1 発生する主な公害の種類のカラムには、大気汚染及び水質汚濁に係るものについては、別表第3から別表第9まで、別表第11及び別表第12に掲げる物質名又は項目を記載してください。
- 2 指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法のカラムには、添付したものについて□内にレ印を記載してください。

### 公害防止方法計画書

指定施設等の 公害発生源	発生する主な 公害の種類	発生源での公害 の程度の予測値	公 害 防 止 対 策	排出口等での公害の程度	
				予 測 値	根 拠
脱脂洗浄施設 D-1	悪臭 (トリクロロエレン臭)		活性炭吸着装置		
〃	大気 (トリクロロエレン)	300ppm	〃	5ppm	除去率 98%以上
〃	排水 (トリクロロエレン)		全量委託処理		
〃	地下浸透禁止 (トリクロロエレン)		床面の不浸透性構造		
めっき施設 M-1	悪臭		スクラバー		
〃	水質 (六価クロム)	300mg/l	排水処理装置	<0.5mg/l	除去率 99%以上
〃	地下浸透禁止 (六価クロム)		床面の不浸透性構造		
指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法	<input type="checkbox"/> 大気汚染物質の排出方法概要書（付表1） <input type="checkbox"/> 硫黄酸化物の排出量明細書（付表2） <input type="checkbox"/> 窒素酸化物の排出量明細書（付表3） <input type="checkbox"/> 炭化水素系物質の設備基準概要書（付表4） <input type="checkbox"/> ばいじんの排出量明細書（付表5） <input type="checkbox"/> ばいじんの設備基準概要書（付表6） <input type="checkbox"/> 粒子状物質の排出量明細書（付表7） <input type="checkbox"/> 粉じんの処理方法概要書（付表8） <input type="checkbox"/> 悪臭の処理方法概要書（付表9） <input type="checkbox"/> 排水の汚染状態、量等明細書（付表10） <input type="checkbox"/> 排水の処理方法概要書（付表11） <input type="checkbox"/> 特定有害物質の製造等の作業に係る施設の構造概要書（付表12） <input type="checkbox"/> 騒音の処理方法概要書（付表13） <input type="checkbox"/> 振動の処理方法概要書（付表14） <input type="checkbox"/> 付表1から付表14までの書類のほか、指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法を明らかにする図面、表等				

備考 1 発生する主な公害の種類のカラムには、大気汚染及び水質汚濁に係るものについては、別表第3から別表第9まで、別表第11及び別表第12に掲げる物質名又は項目を記載してください。  
 2 指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法のカラムには、添付したものについて□内にレ印を記載してください。



大気汚染物質の排出方法概要書

処理前の排出ガスを記入

指定事業所における排煙発生施設の名称及び番号		B-1 ボイラー	T-1 塗装施設	D-1 脱脂洗浄施設	M-1 めっき施設	
指定事業所における大気汚染物質処理施設の番号			T-1-1	D-1-1	M-1-1	
大気汚染物質処理施設の種類、名称及び型式			直接燃焼式 脱臭施設	活性炭 吸着装置	スクラバー	
排出ガス量（定格能力） （m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /h）	湿り	550				
	乾き	470	3060	200	5400	
排出ガス中の酸素濃度（%）		4				
処 理 前	排出ガス温度（℃）	処理前	200			
		処理後				
大 気 汚 染 物 質 の 濃 度	硫黄酸化物 （容量比 ppm）	処理前				
		処理後				
	窒素酸化物 （容量比 ppm）	処理前	56 (O <sub>2</sub> =5%)			
		処理後				
	ばいじん （g/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> ）	処理前	0.001 (O <sub>2</sub> =5%)			
		処理後				
	トルエン （ppm）	処理前		29		
		処理後		1		
	キシレン （ppm）	処理前		94		
		処理後		3		
能 度	トリクロロエチレン （ppm）	処理前			300	
		処理後			5	
除 去 率 （%） 力	硫黄酸化物			除去率（%）＝ （1－ 処理後／処理前 ）×100		
	窒素酸化物					
	ばいじん					
	トルエン		96%以上			
	キシレン		〃			
	トリクロロエチレン					
排出口の実高さ（m）及び口径（m）		10m× φ0.5m	8.1m× φ0.5m	7m× φ0.3m	11m× φ0.85m	

- 備考 1 大気汚染物質処理施設を設置していない場合は、排出ガスの温度及び大気汚染物質の濃度を処理前の欄に記載してください。
- 2 大気汚染物質の濃度の欄には、乾きガス中の濃度を記載してください。
- 3 大気汚染物質の濃度及び除去率の欄には、排煙発生施設から発生する排出ガス中に含まれる硫黄酸化物、窒素酸化物及びばいじんについて記載するほか、炭化水素系物質及び排煙指定物質について、それぞれ物質の種類ごとに記載してください。
- 4 ばいじん濃度の酸素濃度補正を行う施設については、補正值を記載してください。 5 硫黄酸化物については、脱硫装置を設置している場合のみ記載してください。

硫黄酸化物の排出量明細書

1 指定事業所における硫黄酸化物排出量等

項 目	数 値
年間使用熱量 K (10 <sup>10</sup> kJ/年)	0.314
使用熱量10 <sup>5</sup> キロジュール当たりのSO <sub>2</sub> 排出量 R (g/10 <sup>5</sup> kJ)	0
SO <sub>2</sub> 排出量 E (t/年)	0

2 指定事業所における指定施設別の時間当たりのSO<sub>2</sub>排出量等

指定施設名	施設の 種類	原料及び燃料 使用量 (kg/h又はm <sup>3</sup> N/h) (W)	原料及 び燃 料 中 の 硫 黄 分 (%) (S)	原料及び燃 料の総発熱 量 (kJ/kg、m <sup>3</sup> N) (q)	硫黄酸化 物の排 出 量 (g/h) (e)	使用熱 量 (kJ / h) (f)	備 考
ボイラー	61(1)	33.6m <sup>3</sup> N/h	0	45,000kJ/m <sup>3</sup> N	0	1,512,000	
合 計						1,512,000	

### 3 指定事業所における指定施設別の年間 SO<sub>2</sub> 排出量等

指定施設名	施設の種類	硫黄酸化物 の排出量 (g/h) (e)	使用熱量 (kJ/h) (f)	年間稼働 時間 (H)	年間硫黄 酸化物の 排出量 (t/年) (G)	年間使用熱量 (10 <sup>10</sup> kJ/年) (L)
ボイラー	61(1)	0	1,512,000	2,080	0	0.314
合 計						

備考 1 Kとは、個々の指定施設における年間使用熱量の合計をいいます。

$$K (10^{10}\text{kJ/年}) = \Sigma L$$

なお、Lは、次式により算出されるものをいいます。

$$L (10^{10}\text{kJ/年}) = \frac{f \times H}{10^{10}}$$

2 Rとは、別表第3に定める排出許容限度と比較するものであり、次式により算出されるものをいいます。

$$R = \frac{\Sigma e \times 10^5}{\Sigma f}$$

3 Eとは、個々の指定施設におけるSO<sub>2</sub>の量の合計をいいます。

$$E (t/年) = \Sigma G$$

なお、Gは、次式により算出されるものをいいます。

$$G (t/年) = e \times H \times 10^{-6}$$

4 Wとは、個々の指定施設での1時間の燃料又は原料使用量をいいます。

5 Sとは、脱硫装置を設置している施設においては、原料及び燃料の硫黄分に脱硫効率を考慮したものをいいます。

6 硫黄分(%)とは、気体にあつては容積割合で、原料及び液体にあつては重量割合をいいます。

7 qとは、原料及び燃料の総発熱量をいいます。

8 eとは個々の指定施設から排出されるSO<sub>2</sub>の量をいいます。

なお、個々の施設における気体燃料の燃焼による場合は、次式により算出されるものをいいます。

$$e (g/h) = W \times S \times 0.029 \times 10^3$$

また、気体以外の燃料の場合は、次式により算出されるものをいいます。

$$e (g/h) = W \times S \times 0.02 \times 10^3$$

9 fとは、個々の指定施設から排出される使用熱量をいいます。

$$f (kJ/h) = W \times q$$

10 Hとは、指定施設における年間稼働時間をいいます。

窒素酸化物の排出量明細書

別表第4により確認する

1 日規制基準

(1) 指定事業所における窒素酸化物の量に係る使用熱量当たりの排出許容限度

排出区分	a 燃焼の場合 (b、c及びdを除く。)	b ガラス溶融炉の場合	c セメント焼成炉の場合	d 廃棄物焼却炉の場合
排出許容限度 (g/10 <sup>5</sup> kJ)	3.8g/10 <sup>5</sup> kJ			

(2) 指定事業所における1日当たりの窒素酸化物の排出量等

排出区分	a 燃焼の場合 (b、c及びdを除く。)	b ガラス溶融炉の場合	c セメント焼成炉の場合	d 廃棄物焼却炉の場合
① 1日当たりの使用熱量 (10 <sup>5</sup> kJ/日)	510.4			
② 1日当たりの窒素酸化物の排出量 (g/日)	377			
使用熱量当たりの窒素酸化物の排出量(②÷①) (g/10 <sup>5</sup> kJ)	0.7386			

備考 廃棄物焼却炉にあつては、「使用熱量」を「焼却量」に、「10<sup>5</sup>kJ」を「t」に、それぞれ読み替えます。

(3) 窒素酸化物の日排出量等積算書

排出区分	排煙発生施設名	③ 1日の施設稼働時間 (h/日)	定格能力運転時の燃料使用量等の状況					定格能力運転時の窒素酸化物の排出量等の状況					⑫ 使用熱量当たりの窒素酸化物の排出量 ( $g/10^5 kJ$ )	
			燃料種類	④ 1時間当たりの燃料使用量 (kg, m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /h)	⑤ 1日の燃料使用量 (kg, m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /日)	⑥ 単位総発熱量 (kJ/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> )	⑦ 1日の使用熱量 ( $⑤ \times ⑥ \div 10^5$ ) (10 <sup>5</sup> kJ/日)	⑧ 乾き排出ガス中の窒素酸化物の濃度 (ppm)	乾き排出ガス中の酸素濃度 (%)	⑨ 1時間当たりの乾き排出ガス量 (m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /h)	⑩ 1日当たりの乾き排出ガス量 ( $③ \times ⑨$ ) (m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /日)	⑪ 1日当たりの窒素酸化物の排出量 ( $⑧ \times ⑩ \times 46 \div 22.4 \div 10^3$ ) (g/日)		
変	a	ボイラー	8	13A	141.8	1134.4	45,000 kJ/m <sup>3</sup> <sub>N</sub>	510.4	45	5%	510	4,080	377	0.73
更														
後														
変更前	合計							① 510.4					② 377	

- 備考
- この表は、排出区分ごとに作成してください。
  - 排出区分の欄には、前項の表の排出区分に応じ、a, b, c 又は d のいずれかの文字を記載してください。
  - 廃棄物焼却炉にあっては、「燃料使用量」及び「使用熱量」を「焼却量」に、「10<sup>5</sup> kJ」を「t」に、それぞれ読み替えて、単位総発熱量の値を「100」とします。
  - 燃料使用量は、気体燃料にあっては容量で表示し、それ以外は重量で表示します。
  - 排煙発生施設の数が多く、2以上の表を作成したときは、合計の欄は、最後の表に表記されているものとします。

第3号様式（付表4）

炭化水素系物質の設備基準概要書

発生源の概要	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">対象となる施設の名称、施設能力（貯蔵量）等</div>
炭化水素系物質排出防止装置 の 種類、名称及び型式	
処理の方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">処理方法を具体的に記入し、適宜図面等を</div>
装置の処理能力 (処理ガス量 $m^3_N/h$ )	
装置の入口濃度 (ppm)	
排出口における濃度 (ppm)	
除去率 (%)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">除去率 (%) = (1 - 処理後 / 処理前</div>

備考 別表第5第1項に規定する施設について記載してください。

**別表第1の「51・廃棄物焼却炉」に該当する場合は記入**

**ばいじんの排出量明細書**

1 廃棄物焼却炉別のばいじんの排出量の許容限度等

廃棄物焼却炉の番号及び記号	① ばいじんの排出量の許容限度	② 係 数  C i	③ 定格能力運転時の乾き排出ガス量 (O <sub>2</sub> 12%換算) V (m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /h) [ $\frac{21-④}{9} \times ⑤$ ]	④ 定格能力運転時の乾き排出ガス中の酸素濃度  O i (%)	⑤ 定格能力運転時の乾き排出ガス量  V i (m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /h)

2 廃棄物焼却炉別のばいじんの排出量等

廃棄物焼却炉の番号及び記号	⑥ ばいじんの排出量 Q (g/h) [ $⑦ \times ⑧ \times (\frac{③}{⑧})$ ]	⑦ ばいじんの排出濃度 C (g/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> ) [ $\frac{9}{21-⑩} \times ⑨$ ]	⑧ 乾き排出ガス量 (O <sub>2</sub> 12%換算) V c (m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /h) [ $\frac{21-⑩}{9} \times ⑪$ ]	⑨ 乾き排出ガス中のばいじんの排出濃度 C s (g/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> )	⑩ 乾き排出ガス中の	⑪ 乾き排出ガス量  V s (m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /h)

備考 Q i, C i, V, O i, V i, Q, C, V c, C s, O s 及び V s とは、別表第6に定めるものをいいます。





粒子状物質の排出量明細書

1 指定事業所における粒子状物質の量の排出許容限度等

項目	排出区分	a 燃焼の場合 ( b , c , d , e 及び f を除く。 )	b ガラス溶融炉の場合	c セメント焼成炉の場合	d 洗剤乾燥炉の場合	e 洗剤乾燥炉以外の乾燥炉の場合	f 廃棄物焼却炉の場合
係数 $\gamma$							
係数 (使用熱量当たりの粒子状物質の量) P ( t / 10 <sup>10</sup> k J )							
係数 k							
年間使用熱量 H ( 10 <sup>10</sup> k J / 年 )							
年間使用熱量 H <sub>0</sub> ( 10 <sup>10</sup> k J / 年 )							
年間使用熱量 H <sub>i</sub> ( 10 <sup>10</sup> k J / 年 )							
窒素酸化物の年規制基準 Q <sub>N</sub> ( t / 年 )							
年間の粒子状物質の排出量 ( t / 年 )	新設の事業所の場合 $\gamma P H + 0.094 Q_N$						
	新設の事業所以外の事業所の場合 $k P H_0 + \gamma P H_i + 0.094 Q_N$						
排出許容限度 Q ( t / 年 )							

- 備考 1 廃棄物焼却炉にあつては、「使用熱量」を「焼却量」に、「年間使用熱量」を「年間の焼却量」に、「10<sup>10</sup> k J」を「t」に、それぞれ読み替えます。
- 2  $\gamma$  , P , k , H , H<sub>0</sub> , H<sub>i</sub> , Q<sub>N</sub> , Qとは、別表第8に定めるものをいいます。
- 3 H及びH<sub>i</sub>については、排煙発生施設の稼働後1年間の実績値により確定します。

## 2 指定事業所における粒子状物質の年間の排出量等

排出区分	a 燃焼の場合 ( b , c , d , e 及び f を除く。 )	b ガラス 溶融炉の 場合	c セメン ト焼成炉 の場合	d 洗剤乾 燥炉の場 合	e 洗剤乾 燥炉以外 の乾燥炉 の場合	f 廃棄物 焼却炉の 場合
① 年間のばいじんの 排出量 $q_p$ ( t / 年 )						
年間の硫黄酸化物 の排出量 $q_s$ ( t / 年 )						
年間の窒素酸化物 の排出量 $q_N$ ( t / 年 )						
年間の塩化水素の 排出量 $q_H$ ( t / 年 )						
② 硫黄酸化物から生成 される粒子状物質の 量 $(0.197 \times q_s)$ ( t / 年 )						
③ 窒素酸化物から生成 される粒子状物質の 量 $(0.094 \times q_N)$ ( t / 年 )						
④ 塩化水素から生成さ れる粒子状物質の量 $(0.892 \times q_H)$ ( t / 年 )						
年間の粒子状物質の 排出量 $P_e$ (①+②+③+④) ( t / 年 )						
⑤ 年間の粒子状物質の 排出量 (合計値) $P_E$ ( t / 年 )						

備考  $q_p$ 、 $q_s$ 、 $q_N$ 、 $q_H$ 、 $P_e$ 、 $P_E$ とは、別表第8に定めるものをいいます。

粉じんの処理方法概要書

<p>発生源の概要</p>	<p>・粉体塗料の使用</p>
<p>処理方法</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 粉じんが飛散しにくい構造の建物内で作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 集じん装置の設置          装置の種類，名称及び型式 ( 塗装ブース )          湿式・乾式の区別 ( 湿 式・<b>乾</b> 式 )          装置の処理能力 ( 処理ガス量 <math>m^3_N/h</math> ) ( 3,060 )          除去率 (%) ( 85%以上 )          排出口の実高さ及び口径 ( 8.1 × <math>\phi</math> 0.5 m )</p> <p><input type="checkbox"/> 散水設備の設置          設備の種類，型式及び基数 ( )          設備の能力 ( <math>m^3/h</math> ) ( )          散水の方法 ( )</p> <p><input type="checkbox"/> 防じんカバー等の設置          防じんカバー等の設置状況</p> <p><input type="checkbox"/> その他の処理方法</p>

備考 □のある欄には，該当する□内にレ印を記載してください。

悪臭の処理方法概要書

<p>発生源の概要</p>	<p>・ 塗装施設から発生するシンナー臭／トルエン／キシレン</p>
<p>処 理 方 法</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 脱臭設備の設置</p> <p>設備の種類，名称及び型式 (直接燃焼式脱臭装置)</p> <p>湿 式 ・ 乾 式 (湿 式・<input checked="" type="checkbox"/> 乾 式)</p> <p>設備の処理能力 (処理ガス量<math>m^3_N/h</math>) ( 3, 0 6 0 )</p> <p>排出口の実高さ及び口径 ( 8.1 × <math>\phi</math> 0.5 m )</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭の漏れにくい構造の建物内で作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋内で実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋外で実施</p> <p>〔 その理由 〕</p> <p><input type="checkbox"/> 周辺に影響を及ぼさない位置を選び作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭を発生する原材料，製品等の保管方法</p> <p>〔 保管方法 〕</p> <p>塗料及びシンナー類は密閉して保管庫 で保管する</p> <p><input type="checkbox"/> 臭気指数の許容限度に適合することとなる措置</p> <p>〔 〕</p>

- 備考 1 のある欄には，該当する内にレ印を記載してください。
- 2 周辺に影響を及ぼさない位置で作業を実施する場合には，作業実施位置図を添付してください。
- 3 事業所内に複数の建物がある場合には，主な建物の位置や高さが分かる図面等を添付してください。
- 4 原材料，製品等の保管方法，保管する建物の位置等が分かる図面等を添付してください。

悪臭の処理方法概要書

<p>発生源の概要</p>	<p>・脱脂洗浄施設から発生するトリクロロエチレン臭</p>
<p>処 理 方 法</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 脱臭設備の設置</p> <p>設備の種類，名称及び型式 ( 活性炭吸着装置 )</p> <p>湿 式 ・ 乾 式 ( 湿 式・<b>乾 式</b> )</p> <p>設備の処理能力（処理ガス量<math>m^3_N/h</math>） ( 200 )</p> <p>排出口の実高さ及び口径 ( 7×<math>\phi</math>0.3m )</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭の漏れにくい構造の建物内で作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋内で実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋外で実施</p> <p>〔 その理由 〕</p> <p><input type="checkbox"/> 周辺に影響を及ぼさない位置を選び作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭を発生する原材料，製品等の保管方法</p> <p>〔 保管方法 〕</p> <p>薬品類は密閉して保管庫で保管する</p> <p><input type="checkbox"/> 臭気指数の許容限度に適合することとなる措置</p> <p>〔 〕</p>

- 備考 1 □のある欄には，該当する□内にレ印を記載してください。
- 2 周辺に影響を及ぼさない位置で作業を実施する場合には，作業実施位置図を添付してください。
- 3 事業所内に複数の建物がある場合には，主な建物の位置や高さが分かる図面等を添付してください。
- 4 原材料，製品等の保管方法，保管する建物の位置等が分かる図面等を添付してください。

悪臭の処理方法概要書

<p>発生源の概要</p>	<p>・ めっき施設から発生する臭気</p>
<p>処 理 方 法</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 脱臭設備の設置</p> <p>設備の種類，名称及び型式 ( スクラバー )</p> <p>湿 式 ・ 乾 式 (<input checked="" type="checkbox"/> 湿 式 ・ 乾 式)</p> <p>設備の処理能力（処理ガス量<math>m^3/h</math>） ( 5,400 )</p> <p>排出口の実高さ及び口径 ( 11×φ0.85m )</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭の漏れにくい構造の建物内で作業を実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋内で実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋外で実施</p> <p>その理由</p> <p><input type="checkbox"/> 周辺に影響を及ぼさない位置を選び作業を実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する原材料，製品等の保管方法</p> <p>保管方法</p> <p><input type="checkbox"/> 臭気指数の許容限度に適合することとなる措置</p>

- 備考 1 □のある欄には，該当する□内にレ印を記載してください。
- 2 周辺に影響を及ぼさない位置で作業を実施する場合には，作業実施位置図を添付してください。
- 3 事業所内に複数の建物がある場合には，主な建物の位置や高さが分かる図面等を添付してください。
- 4 原材料，製品等の保管方法，保管する建物の位置等が分かる図面等を添付してください。

排水の汚染状態、量等明細書

項 目	水量 (m <sup>3</sup> /日)		温度 (°C)		色汚染度 (度)		pH	BOD (mg/l)		COD (mg/l)		SS (mg/l)			
	通常	最大	通常	最大	通常	最大		通常	最大	通常	最大	通常	最大		
排水処理施設名															
排水処理施設	処理前	70	90	1日当たりの排水量が300m <sup>3</sup> 以上の排水口について記入			3.5	20	30	25	30	20	30		
	処理後	70	90				7.0	10	20	15	20	10	20		
合併浄化槽	処理前	20	30				7.5	200	300	200	300	250	280		
	処理後	20	30				7.5	15	20	15	20	40	60		
	処理前														
	処理後														
排水口別															
No. 1		70	90				7.0	10	20	15	20	10	20		
No. 2		20	30				7.5	<15	<20	<15	<20	<40	<60		
合 計		90	120												

項 目	nヘキサン抽出物質含有量(mg/l)				大腸菌群数 (個/cm <sup>3</sup> )	トリクロエチレン (mg/l)	六価クロム (mg/l)		
	鉍 油 類		動植物油脂						
	通常	最大	通常	最大					
排水処理施設名									
排水処理施設	処理前	3	5			<0.01	<0.01	250	300
	処理後	<1	<1			<0.01	<0.01	0.1	0.2
合併浄化槽	処理前								
	処理後			<3000	<3000				
	処理前								
	処理後								
排水口別									
No. 1		<1	<1			<0.01	<0.01	<0.1	<0.2
No. 2		<1	<1			<3000	<3000		

備考 1 合計欄には、排水口別の水量の合計を記載してください。

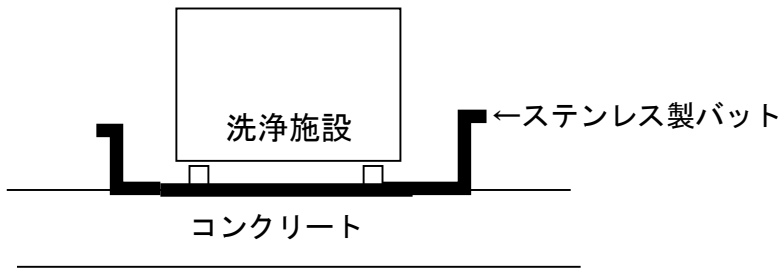
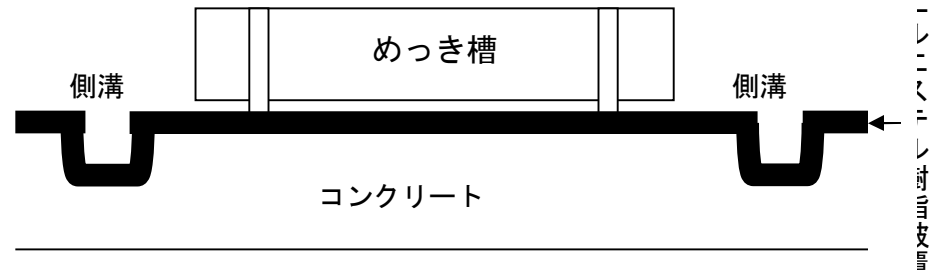
2 項目の欄に記載のない項目については、排水指定物質のうち排出のおそれのあるものについて記載してください。

排水の処理方法概要書

処 理 施 設	名 称 及 び 種 類	排水処理施設	合併浄化槽
	設 置 場 所	別紙〇のとおり	別紙〇のとおり
	工事着手予定年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	〇〇年〇〇月〇〇日
	工事完成予定年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	〇〇年〇〇月〇〇日
	使用開始予定年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	〇〇年〇〇月〇〇日
	型 式	〇〇社製△△型	合併浄化槽 型式CS△△型
	構 造	鉄筋コンクリート製	FRP製
	主 要 寸 法	8 m × 1 0 m × 2 m	
	能 力 (m <sup>3</sup> /日)	〇〇m <sup>3</sup> /日	〇〇m <sup>3</sup> /日 〇〇人槽
	処 理 方 法	連続式 (油水分離、クロム還元、凝集沈殿、ろ過、中和等)	嫌気ろ床接触ばっ気方式
	設 計 計 算 書	別紙〇のとおり	別紙〇のとおり
	使 用 状 況	月 使 用 日 数 等	〇時間/回 〇回/日 〇日/月
季 節 変 動		なし	なし
使 用 す る 消 耗 資 材	名 称	硫酸、水酸化ナトリウム、亜硫酸水素ナトリウム、PAC	
	用 途 別	中和、還元、凝集、沈殿	
	1日当たりの使用量	硫酸(〇kg)、水酸化ナトリウム(〇kg) 亜硫酸水素ナトリウム(〇kg)、PAC(〇kg)	
敷地内における用水及び排水の系統		別紙系統図のとおり	



特定有害物質の製造等の作業に係る施設の構造概要書

特定有害物質の製造等の作業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱脂洗浄施設でのトリクロロエチレンの使用</li> <li>・めっき施設での六価クロムの使用</li> </ul>	
特定有害物質の製造等の作業に係る施設の構造	共通の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 耐性材質で被覆された不透水性材質の床面</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 防液堤、側溝等流出を防止するための構造</li> </ul>
	有機塩素系溶剤の作業に係る施設の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 耐浸透性のある材質等による床面の被覆等</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> ステンレス鋼の受け皿等の設置</li> </ul>
	構造の概要  ・脱脂洗浄施設   ・めっき施設 	

備考 1 □のある欄には、該当する□内にレ印を記載してください。  
 2 構造の概要の欄については、必要に応じて図面を添付してください。

騒音の処理方法概要書

（単位 デシベル）

発生源である施設等		動カプレス機 P-1	せん断機 S-1	メーカー資料等の 「機側Om、OOdB」 をもとに記入	
① 発生源での騒音レベル		$\frac{1 \text{ m}}{78 \text{ dB}}$	$\frac{1.5 \text{ m}}{70.2 \text{ dB}}$	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$
騒音対策による減衰値	② 音源対策による減衰	施設から直近の敷地境界線までの直線距離（繰り上げないこと）			
	③ 距離減衰	$\frac{6 \text{ m}}{15 \text{ dB}}$	$\frac{6 \text{ m}}{12.0 \text{ dB}}$	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$
	④ 建屋による減衰	距離による減衰値「 $20 \log(\text{③の距離} / \text{①の距離})$ 」で計算 減衰値は繰り上げないこと（例：15.56→15もしくは15.5）			
	⑤ 防音壁等による減衰				
	⑥ 減衰値合計 ②+③+④+⑤	15 dB	12.0 dB		
敷地境界線での騒音レベル予測 ①-⑥		63 dB	58.2 dB		
防音対策の具体的内容		ALC(50mm) 別紙構造図のとおり	ALC(50mm) 別紙構造図のとおり	施設が防音壁や建屋に覆われている場合、 壁の高さや材質、厚みを記入 (距離減衰で規制基準値を満たす場合、 ④、⑤に減衰値を記載しなくてもよい)	
施設の使用時間		8時00分～ 18時00分	8時00分～ 18時00分	規制基準値は用途地域によって異なるため、別表13により確認する	
当該事業所に適用される規制基準値		【午前8時から午後6時まで】 65 dB	【午前6時から午前8時まで及び午後6時から午後11時まで】 60 dB	【午後11時から午前6時まで】 50 dB	
施設等の位置及びその位置から敷地境界線までの距離		別紙敷地内建屋及び施設配置図のとおり 施設の位置がわかる図面に敷地境界線までの距離を記入			

振動の処理方法概要書

(単位 デシベル)

発生源である施設等		動力プレス機 P-1	せん断機 S-1		
① 発生源での振動レベル		$\frac{1 \text{ m}}{68 \text{ dB}}$	$\frac{1.5 \text{ m}}{60.1 \text{ dB}}$	メーカー資料等の 「機側Om、00dB」 をもとに記入	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$
振動 対策 による 減衰 値	② 振源対策による減衰	施設から直近の敷地境界線までの直線距離（繰り上げないこと）			
	③ 距離減衰	6	6 m	m	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$
	④ その	距離による減衰値を計算式により算出する ・川崎区の場合 「 $10 / \log(\text{③の距離} / \text{①の距離})$ 」 ・川崎区以外の場合 「 $13 / \log(\text{③の距離} / \text{①の距離})$ 」 減衰値は繰り上げないこと（例：7.78→7もしくは7.7）			
	⑤ 減衰値合計 ②+③+④	7.7 dB	6.0 dB		
敷地境界線での振動レベル予測 ①-⑤		60.3 dB	54.1 dB		
防振対策の具体的内容		防振ゴム 別紙構造図 のとおり	のとおり	防振器具等を使用している場合はその旨を記入 （距離減衰で規制基準値を満たす場合、②に減衰値を記入しなくてもよい）	
施設の使用時間		8時00分～ 18時00分	8時00分 18時0	規制基準値は用途地域によって異なるため、別表14により確認する	
当該事業所に適用される規制基準値		【午前8時から午後7時まで】 65 dB		【午後7時から午前8時まで】 60 dB	
施設等の位置及びその位置から敷地境界線までの距離		別紙敷地内建屋及び施設配置図のとおり 施設の位置がわかる図面に敷地境界線までの距離を記入			

### 用排水収支バランス

単位：m<sup>3</sup>/日  
 ( ) 内は最大値

